

文化の力で大阪に活力を。

# OSAKA\*文化力

No.114

2012 SPRING・春

関西から

文化力  
POWER OF CULTURE

リレーインタビュー

イ・ヒョンジュ

李賢主氏

駐大阪大韓民国総領事

Front Talk

中北徹氏

(東洋大学理事・経済学研究科教授)

日本の文化戦略と国際化時代の人材育成

メセナ最前線

千島土地株式会社 芝川能一 社長

大阪文化考

二代目 京山幸枝若氏

上方浪曲界の大看板が目指すこと

I・N・A・C神戸レオネッサが大賞

関西元気文化圏賞贈呈式

イギリス文化振興視察報告

## 李 賢主 氏

イ ヒョン ジュ

駐大阪大韓民国総領事

韓国料理や韓流ドラマ、K-POPなどが日本で日常化しているように、韓国でも日本の映画や小説の人気が高い。「現代の文化や道徳観に韓日の差異はほとんどない」と語る李総領事に、近年の状況や今後両国の文化が共に発展していくためのお考えについて伺った。

## お互いの文化を楽しむ時代

韓国における文化施策は、現在のように経済発展する以前は制度や施設整備に力を注いできました。やがて急速な経済発展と民主主義の定着によって、人々は10年程前からいわゆるK-POPや韓流映画などのコンテンツに注目するようになりました。その内容は自由奔放なものもあって、「自由主義すぎる」と眉をひそめる年配者もおられるほどです。また、金大中大統領(在任:1998~2003年)時代に日本文化の輸入が緩和されたこともあって、今では日本の映画や小説も多く見られます。日本の小説がベストセラーの上位にランクされることも珍しくありません。

とはいえ私の学生時代(1960~70年代)は、「親日」という言葉は「愛国」の反対を意味するものでした。日本の文化はもちろん、多くの人は日本語を勉強することにも抵抗感をもっていました。しかし両国の経済交流が活発になるにしたがって反日的な考えはどんどんなくなり、今や両国の若者を中心にお互いの文化を楽しむことは日常的で、両国間の文化交流はもはや話題にもならなくなりました。

## 外国に来た感じがしない

現在、日本には約2万8千人の韓国人留学生がおり、そのうち約2千人が関西で学んでいます。一方、韓国には約4千人の日本人留学生がいます。また、査証相互免除協定(2006年3月1日)によって、観光や語学研修などで韓国を訪れる日本人はビザなしで3か月間滞在できるようになるなど、両国の距離はますます近くなりました。

現代文化の面でも両国の差異はあまりなく、私は22年ぶりに日本へ赴任しましたが、外国に来たという感じがあまりしません。韓国料理も浸透しています。日本で知られている韓国料理の多くは庶民料理で、これがじつに美味しい。また、日本ではあまり知られていませんが、韓国の南西部にある全羅道(チョルラド)地方の料理もおすすです。肉や魚、野菜など豊富な食材を使い、一度に何種類もの料理を並べて楽しめます。食いしん坊の私はつい

い食べ過ぎて



駐大阪大韓民国総領館にて

しまうのですが、妻からはいつも体重を気にするよう言われるので、家では控えめにしています。

## 異なる文化を共通の資産に

韓国では儒教的な道徳観が浸透しているといわれますが、これも両国で差異はないと感じます。日本では今でも『忠臣蔵』の物語が好まれていますし、混んだ電車で若い人が高齢者に席を譲る風景を見かけます。

私は韓国人も日本人も文化的には同じ壺の中に住む者同士で、異なる文化も共通の資産だと思っています。だから韓国人と日本人の異なる考え方を交えることで、新しい価値観や文化コンテンツも創造できると思います。シェイクスピアがイタリア文化をもとに『ロミオとジュリエット』を書いたように、韓国人が『忠臣蔵』をモチーフにした映画を作ったり、演劇に歌舞伎を取り入れたり、あるいは日本人が韓国の小説を映画化することもできるでしょう。そうすることで両国の文化資源が2倍にも3倍にもなり、韓国と日本の創造的な文化交流につながると思います。

## 李 賢主 (Lee Hyun-ju) 氏

1956年韓国ソウル出身。1979年ソウル大学貿易学科卒業後、韓国外務部入部。1986年早稲田大学研修後、1987年駐日本大使館2等書記官、1989年駐ポーランド大使館1等書記官、1997年韓半島エネルギー開発機構(KEDO)北朝鮮事務所代表、2001年駐米国大使館参事官、2004年駐中国大使館公使などを経て、2011年11月より現職。1997年禄租勤政勲章叙勲。主著にKEDO時代の体験をまとめた『たいまつとろうそく(2003年・朝鮮日報社/日本語訳『北朝鮮・断末魔の虫瞰図(2004年・ビジネス社)』がある。



全羅道料理(写真提供:駐大阪大韓民国総領事館)



# 日本の文化戦略と 国際化時代の人材育成

## － アジア・ゲートウェイ構想を振り返りつつ －

21世紀はアジアの時代といわれる。  
 発展著しいアジアの活力を取り込むことは、  
 日本の新たな成長戦略につながる。  
 そして、その鍵となるのが高度な人材の育成・交流と活用。  
 いかにしてアジアの優れた人材を引き寄せ、  
 あるいは関西・大阪から育て送り出しているのか。  
 2012年を迎えアジア情勢が激動するなか、  
 高度な人的、知的、文化的交流を通して  
 日本とアジアが創造的な関係を築くために、  
 今こそ、その実践が求められている。

東洋大学理事・経済学研究科教授

中北 徹氏



世界の GDP に占める日本のシェア (1990 年国際購買力平価換算)  
 出典 A.Maddison (HP) : Historical Statistics for the World Economy

## 世界に占める日本の比重

堀井 中北先生は東洋大学大学院で教鞭を執られるかたわら、2006年から07年にかけて、当時安倍総理官邸の『アジア・ゲートウェイ戦略会議』の副座長を務められました。今回はそこでの話を含め、日本の文化戦略や留学生問題、大学における人材育成や交流、さらには大阪の将来に期待されることなどについてお伺いしたいと思います。

中北 お招きいただきありがとうございます。まずは、世界における日本の経済的比重について、『世界のGDP(国内総生産)に占める日本のシェア(表A)』をもとにお話させていただきます。これは世界的に有名な経済学者のアンガス・マディソン(1926~2010年)が科学的根拠に基づいて計算した、過去2000年間の日本、イギリス、アメリカ、中国、インドのGDPの推移です。

これによれば、明治時代に入って間もないころの日本のGDPの世界シェアは2.3%でした。それが第二次世界大戦後の1950年には3.0%、高度経済成長期の1960年には4.4%になり、バブル絶頂期の1990年には8.6%まで伸びています。日本の土地価格でアメリカが二つぐらい買えるといわれていた当時、日本のGDPは瞬間的には世界の1割近くをシェアしていたと思われる。しかしバブル崩壊以降、現在は5.7%まで下がりました。また、イギリスも日本と似たり寄ったりで、産業革命を経て19世紀の終わり頃には9%まで上がったものの、戦後、経済の後退によってGDPが下がり、現在は3%を切っています。

一方、アメリカは20世紀初頭には産業が勃興し、戦後の1950年には27.3%と世界で4分の1以上のシェア

(表A) 世界のGDPに占める日本のシェア(1990年国際購買力平価換算) (単位:%)

西暦	0	1000	1500	1820	1870	1900	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2008
日本	1.1	2.6	3.1	3.0	2.3	2.6	3.0	4.4	7.4	7.8	8.6	7.3	5.7
イギリス	0.3	0.7	1.1	5.2	9.0	9.4	6.5	5.4	4.3	3.6	3.5	3.3	2.8
アメリカ	0.3	0.4	0.3	1.8	8.9	15.8	27.3	24.3	22.4	21.1	21.4	21.8	18.6
中国	25.4	22.7	24.9	33.0	17.1	11.1	4.6	5.2	4.6	5.2	7.8	11.8	17.5
インド	32.0	27.8	24.4	16.1	12.2	8.6	4.2	3.9	3.4	3.2	4.0	5.2	6.7
全世界	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典 A.Maddison(HP):Historical Statistics for the World Economy

を占めるに至りました。とはいえ冷戦後は徐々に下がり、現在はアメリカといえども20%を切る状況です。

さて問題は中国とインドです。2000年という長い歴史でみると、帝国主義列強が跋扈する19世紀初頭まで両国のGDPは世界の20~30%をシェアしていましたが、アヘン戦争やセポイの乱、東インド会社などで搾取されつづけた結果、第二次世界大戦後は4~5%にまで下がってしまいました。しかし中国は現在、市場型社会主義の国策により17%まで回復し、アメリカと角逐しています。こうしてみれば、中国・インドのGDP比率が19世紀なみに戻ってきたというのが現在の状況といえます。

## ハードパワーとソフトパワー

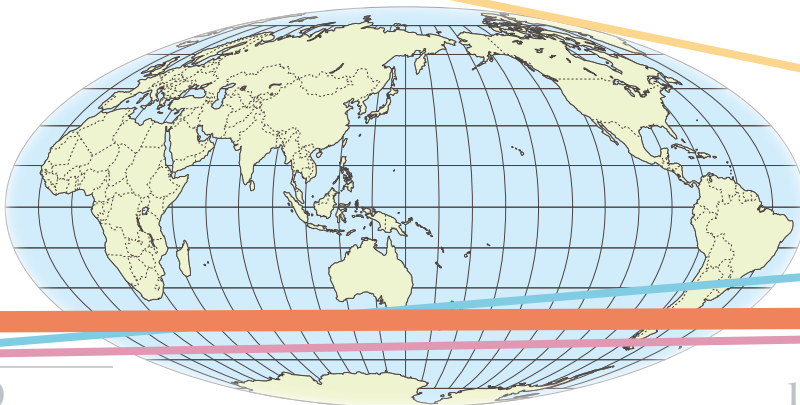
これまでの日米中の関係は、国家体制の観点で日米が近く中国が遠い不等辺三角形で示すことができました。しかし、現在の日中関係は経済面で非常に近づいてきていることを考えれば、今後の日米中関係は均整のとれた等辺三角形の関係が望ましいと思います。また、日本とアメリカの関係も、経済を無視した安保一辺倒な考え方はもはや時代にそぐわず、日米中間における経済的な相互依存を深めることが非常に重要になるでしょう。現にアメリカは中国の経済力を無視できないところまで

きており、たとえテーブルの下で互いに足を蹴り合っていたとしても、米中間における経済的な相互依存はますます強くなっているのです。

こうした米中関係は、これまでハードパワーとソフトパワーという言葉で説明されてきました。ハードパワーとは軍事力や経済力で、ソフトパワーとはそれを支える政治力や価値観、生活様式、文化的影響力をいいます。アメリカは冷戦終結(1989年)後もハードパワーを重視する外交戦略をとっていましたが、一方でジョセフ・ナイ(※1)という国際政治学者が提唱するように、アメリカが持つ世界有数のソフトパワーを外交戦略に活用する考えも示されていました。しかし皮肉にも、同時多発テロ事件(2001年9月11日)を契機に、ブッシュ政権下のアメリカは軍事力を一層強めることになったのです。

一方、中国は、かねてよりアメリカ以上にソフトパワーの重要性に着目していたと思います。その代表例に孔子学院(※2)があります。中国は共産党のテーゼに一見反するような名称の機関を作っても、アメリカをはじめ世界をソフトパワーで席卷しようという戦略に出ています。

そして現在、オバマ政権下のアメリカでは、ハードパワーでもソフトパワーでもない、その両方をスマートに







(賢く) 組み合わせた“スマートパワー”という新たな外交戦略にシフトしています。こうしてみると、米中関係というの

はハードパワーの時代を経て、現在はソフトパワーでお互いに牽制し合う状態にあるといえます。

しかし私は、ソフトパワーやスマートパワーだけで国際競争を生き抜くことには無理があると考えます。経済学の見地で言えば、第一に必要なのはハードパワーです。豊かな経済力を持つことでその国のライフスタイルが世界の人々の憧れとなり、それによってこそソフトパワーやスマートパワーが発揮される。私たちがアメリカのスニーカーやジーンズに憧れるのは、アメリカにハードパワーがあり豊かだからです。これと同様に、日本のソフトパワーが世界の注目を集めるには、まずは国が経済的に豊かであるということが前提となります。現在、アジア諸国をはじめ欧米でもアニメやJ-POPなどの人気が高まっていますが、こうした文化戦略の成功は日本の経済力に依拠しているといえます。

一方、中国がこれまでためてきたソフトパワーは、昨年、尖閣諸島中国漁船衝突事件での中国政府の強硬な対応(ハードパワーによる外交戦略を優先させたこと)により、一瞬にしてその効力が消滅したと思います(※3)。

## 高度人材ネットワーク戦略

外務省は数年前から、アニメ大使や寿

司大使などさまざまな文化外交によって日本文化を海外に発信し、日本に対する世界の関心の醸成に努めています。『アジア・ゲートウェイ構想』は、そうした流れの延長で立ち上がりました。

この構想は、経済成長が著しいアジア各国の活力を取り込むことで日本の魅力を高め、さらにその魅力を広く海外に発信しようというものです。2007年5月、構想を具体的な政策に結びつけるため、内閣官房に『アジア・ゲートウェイ戦略会議(議長:安倍晋三首相)』が設置され、東京藝術大学の宮田亮平学長や松下電器産業の中村邦夫会長など10名がメンバーとなりました。

ここで議論されたのは、羽田空港の24時間化や関西国際空港における新路線開設などを検討する「航空自由化」をはじめ、「構造改革特区制度」「日本の魅力の海外発信」など10項目におよびました。なかでも構想の柱として重視されたのが、高度な人材によるアジアでのネットワークづくりでした。日本の魅力を高め世界に発信するには、モノや金だけではなく、世界で通用する“人づくり”が極めて重要で、それなくして企業も大学も生き残れないというものです。そこでもっとも重視されたのが留学生問題でした。受入シェアの確保(世界の5%程度)や産学連携の推進、海外現地機能の強化など、新たな留学生政策が検討されました。

日本に来る留学生は、私が学生だった頃、例えば中国人の留学生はほとんどが国費でやって来たエリートでした。とくに社会科学関係では、留学期間が終っても本国に戻りたくないという人が多く、結局は日本の人材として私たちの仲間になったりしました。しかしその後、日本の経済成長に伴って資質

に問題のある留学生が増えました。日本でアルバイトをするのが目的だったり、どこかに儲け話があると聞けば突然いなくなったりするんです。しかし最近はまだ、中国人留学生の質が非常に良くなっています。彼らの多くが一人っ子で、裕福な家庭で十分な教育を受け、とても大事に育てられてきたんですね。といっても両親は共産党員ではありません。聞けば中国の東北地方に大きな実家があり、フローリングの部屋はすべて床暖房で、自分の部屋には自分専用のベッドが誰にも使われないまま置いてあるとか。実家に帰ると両親や祖父母、親戚が揃って御馳走を食べ、最近では生活習慣病を持つ人も多いそうです。

こうした中国人留学生は、日本の学生に比べて目的意識がはっきりしており、モチベーションも非常に高い。彼

### ※1 ジョセフ・ナイ

(米・Joseph Samuel Nye, Jr.:1937~)

カーター政権下で国務次官補、クリントン政権下で国家情報会議議長などを歴任した知日派の国際経済学者。国際関係における相互依存論者で、スマートパワーによる外交戦略を提唱する。ハーバード大学特別功労教授。

### ※2 孔子学院

中国が海外の大学などの教育機関と連携し、中国語や中国文化の普及、中国との友好関係醸成を目的に設立した中国の公的機関。日本をはじめ世界各国に優先を置くが、欧米諸国の一部には、国内の教壇を中国政府に提供するものとして、その設置に懸念を示す声もある。

※3 尖閣諸島中国漁船衝突事件(2010年9月7日)で中国政府は、「日本へのレアアースの輸出差し止め」「日本人大学生の上海万博招致の中止」「航空路線増便交渉の中止」など複数の報復措置で対抗した。一方、アメリカ政府は、「尖閣諸島は日米安全保障条約第5条の適用対象範囲内である(クリントン国務長官/同年9月23日)」と表明。この事件で、いざとなれば実力行使で外交問題を収束させようとする中国のハードパワー頼みの姿勢に対し、警戒感が国際社会に広がった。

らは日本で学んで資格を取り、数年働いてから母国に戻って高給な職に就くことを目指しています。また彼らは、例えばヤマダ電機やドンキホーテのような成長企業で働くことを希望しており、東京基準のビジネス観も持っていません。日本人学生とは微妙に着眼点が異なっているのは面白いところです。

## 留学経験が活かせる社会に

企業にとっても、そうした留学経験者を有能な人材として活用するメリットは非常に大きいと思います。私は北京大学の東アジア研究所の学術委員をしていますが、そのスポンサーである企業の女性秘書も日本での留学経験があり、非常に日本語が上手く、専門知識も豊富です。あるとき私が北京大学で金融論の難しい話をして、北京大学で用意した通訳がしどろもどろになってしまったことがありました。そこで彼女が通訳を買って出て、私の話を即座に的確に伝えて一同を感心させることがありました。企業が国際化を果たすには、そうした有能な人材を秘書やアドバイザーとして活用することが重要であり、すでにそれを実践している企業があることを実感しました。

アジア・ゲートウェイ構想では、こうした優秀な留学生のキャリアデザインを大学や企業がいかに関心するかがポイントとなりました。日本から留学生を出すにしろ、海外から受け入れるにしろ、それが大学止まりになっている現状は困ったものです。これからの日本は、日本で留学を終えた外国人が日本の企業に就職し、母国に戻ってしるべきポストに就職するというキャリアデザインをちゃんと用意すべきだと思います。一方、海外へ留学する日本人学生もそうしたことをしっかり意識していなければなりません。海外に

出先を置く企業なら、留学先の国で就職できるし、日本に帰ってきてでも受け入れてもらえる。つまり日本でも海外でも就職先が確保されるというメリットがあります。そうしたことを、学生もその親も意識して留学を考えるべきだと思います。

とはいえ現状は、多くの企業に留学経験者のキャリアデザインがないため、せっかく留学してMBA（経営学修士）まで取ったのにそれに見合うポストが与えられなかったり正しく評価されないケースが多く見られます。そのため留学までして学んだことが全く活かされず、留学が単に箔をつけるだけのものになってしまっているんです。だから学生も親も海外留学による時間的・経済的リスクと将来への不安を感じて、なかなか日本を飛び出す決心がつかない。それどころか親は留学に反対するようになります。実際、留学するかどうかが悩んでいる学生の顔を見ると、親とどんな話をしているのか容易に想像できます。

日本が世界に通用する人材の育成や国際化を本気で実現しようとするなら、まずは企業が留学経験者のグローバルスタンダードな評価基準を持ち、しかるべきキャリアデザインを用意すべきです。そして重要なのは、大学と企業が連携して自らを変え、情報発信すること。こうして留学のリスクをなくしていくことで、学生のモチベーションが上がり、語学力の向上にもつながっていくでしょう。まずはそれなくして高度な人材による世界的ネットワークを構築することはできません。

また、大学も海外に分校を持つなどして外国人留学生の受け入れを促進すべきです。それによって日本語の普及にもなるし、留学生にとってはわざわざ日本まで来る必要がなく、学費や留

学生生活などの経済的負担も軽減されます。このような大学の国際化については、現在さまざまなアイデアが出されていますが、もはや悠長に議論している場合ではなく、実行すべき時にきています。

## 語学習得で「提案力」強化を

外国人留学生に対抗して、日本人留学生の実力を上げることは喫緊の課題です。では、留学によって向上すべきスキルというのは何でしょうか。言い換えれば何のために語学が必要なのかということです。私は、それを“提案力”だと思っています。

海外ビジネスにおいては、提案力が弱いために非常に損をしているケースが多く見られます。例えば日本は中国やヴェトナム、カンボジア、インドにさまざまなODA（政府開発援助）を行っていますが、日本企業が水道や下水道、鉄道、通信などのインフラ事業を受注した場合、そのハードが出来上ってしまえばそれで終わって帰ってきってしまう。つまり、日本はモノを売ったら売ったきりで終わってしまい、その後欧米企業が参入して何十年間も長期に安定した運営管理のビジネスを、しかも、“顔のみえる”事業として遂行していくわけです。日本が作ったモノで外国企業がビジネスをするなんて、こんな悔しいことはありません。

例えば中国で新幹線を作ったのであれば、運行システムや運転士教育などもセットで提案しなくてはならないし、水道や下水道なら、国によって水資源や環境保全に対する考え方や習慣、規制などが異なりますから、それに応じた導入提案ができなくてはなりません。技術や製品さえ良ければ黙っていてもモノが売れるというのは韓国やシンガポールなどのライバルのいない時代の



こと。日本企業は技術や製品によるブランド戦略やマーケティング戦略を説明し、受入国において予算の制約があればファイナンスの提案をし、規制があればそれを乗り越えるソリューション（問題解決）をもって世界のライバルを制していかなくてはなりません。そして国情に応じた意思疎通ができる肝っ玉の大きな人材を育てることが重要で、それが次代の日本の産業界を支える力になるんです。いくら政府高官が海外に行ってトップセールスをしたところで、ビジネスとして長期にわたって安定的に発展する可能性は低いですからね。こうした考えは、すでに日本の商社も認めているところです。ちなみに韓国の大手家電メーカーのサムソンは、海外に人材を派遣して2年間くらい現地生活をしながら研修した上で採用するそうです。だから言葉もマスターしており、現地の人々の琴線に触れる提案力が身についています。現地の事情を慮ることなく、本社つまり東京基準を押し付けるのでは、今後の国際ビジネスでも苦戦を強いられるでしょう。だから留学生政策を推進する一方で、社会人大学などによって社会人も自らを再教育し、国際感覚を養うことが重要だと考えています。

### 成長の種は大阪モデルにある

最後に、これからの大阪に期待することをお話します。日本がバブル景気に沸いていた頃、大阪の優れた企業の多くがこぞって東京に本社機能を移しました。これこそが大阪経済を停滞させ、企業の国際化を阻む原因だったと思います。そうした企業のなかには、東京を足がかりとして世界進出を果たそうと考えた企業も多かったでしょう。しかし、東京が必ずしも世界と直通しているわけではありません。東京には

東京特有の堅苦しさがありません。中央官庁が近くにありますが、企業は役所の縦割りに対応した部署をつくらなければならなかったり、業界団体の幹事役などが回ってくると役所以上に役所的な仕事の仕方を強いられることも少なくありません。東京に出たからといって、自由に世界に羽ばたけるものではないのです。むしろ東京経由でグローバル化をめざすと、大阪特有の活力や個性を喪失してしまう危険性すらあります。

大阪には、日本の高度経済成長を支えてきたと自負できるほど多くの大企業が発祥しています。松下電器産業、三洋電機、シャープに代表される家電産業をはじめ、大和ハウス工業、積水ハウスに代表される住宅産業、さらには製鉄産業や繊維産業などの製造業では顕著です。精密機械部品を製造する中小企業や、大阪発祥の料理も多い。エンターテインメントの分野でも、藤田まことの『てなもんや三度笠』や藤山寛美の『松竹新喜劇』など、大阪で生まれたコメディ―は一世を風靡しました。私もそうした大阪発のコメディ―が大好きで、少年時代に、それも家族と一緒にテレビでよく見たものです。ところがそうしたエンターテインメント企業は今や株式上場して“お笑い産業”となり、東京のビジネスモデルに追従していきました。また、黒部ダムをもつ関西電力はかつて日本一の電力シェアをもつ大企業でしたが、奇しくも東日本大震災で東京電力をビジネスモデルにした“東電化”になっていることがわかりました。こうして見ると、大阪特有の活力をもった企業が、どんどん東京化しているように思えます。しかし、ビジネスモデルや人材教育は有機的で多様なものですから、今後は東京をモデルにするのではなく、大阪

モデルのなかにある発展の種を育ててほしいと思います。

例えば電子材料産業や化学、薬品、繊維産業などが多く集積している富山県では、日本海をはさんで対岸諸国と近接する地の利を活かして、中国や韓国をはじめロシア極東地域をマーケットとしたゲートウェイ機能を促進させようとしています。このように、海外進出や海外発信をめざす大阪の企業は、いちいち東京を経由するのではなく、大阪独自の良さをもって直接海外に出て行った方がよいと思います。

### 中北教授にズバリ ここが聞きたい!

Q1. 中国バブルの崩壊の可能性と影響は?

A1. 中国のバブル景気の現状については、そろそろ崩壊の兆しが見えてきています。普通ならもう崩壊していてもおかしくないのですが、政府の財源投入で北京オリンピックや上海万博まで引き延ばしてきたんですね。しかし、さすがにリーマンショックやユーロ危機で相当苦しい状況になっています。

中国人留学生から聞いた話では、北京や上海はもちろん北端のハルビン市でもバブル景気に沸き、住宅が高値で売れていたそうです。しかし最近では、例えば上海では中心部の地価はまだ高いですが、周辺部の地価が下がっているようです。普通は中心部が下がり始めるから周辺部が上がるのですが、中国では逆。中国では本当の金持ちは中心部の土地を買って、周辺部はそれほど大金持ちではない中産階級の人たちが買っています。周辺部とはいって

中国  
アメリカ

インド  
日本  
イギリス

1990

2000

2008

も関東平野より広いですが、そこでは入居者のいないマンションが増え、土地価格の下落が進んでいるようです。

そしてこのバブルが崩壊したら、中国人はどう反応するか。私の親友の中国人は、中国人は誰もが自分の利益だけを考えて大騒ぎになるのではないかと心配しています。一方、日本の経済の専門家たちは、このバブルが崩壊しても中国経済はあまり大きな傷を負うことはないだろうとみています。中国はまだまだ成長過程にありますから、バブル崩壊の危機は十分に乗り越えるだろうという見方です。実際、中国で経済成長が著しいのは沿海部にすぎず、内陸部での労働賃金は依然として非常に安く、人々は貧しい生活を余儀なくされています。言い換えれば中国の内陸部や西部には経済発展の余地が多く残されているわけですから、バブル崩壊といっても国全体を揺るがすようなことにはならないのです。

## Q2. 大阪の政治改革を東京都民はどう見えていますか？

A2. 東京都民は2011年11月に行われた大阪の知事・市長ダブル選挙の結果に大きな関心を持っていました。鳩山フィーバーによって自民党から民主党に政権が移ったとき、東京都民はこれで日本の閉塞状況が変わるだろうという大きな期待を持ちました。しかし、現在に至ってもなお永田町と霞ヶ関のやり方は本質的には変わっておらず、民主党政治に対する失望感は深まる一方です。もはや都民は、政治に対して心躍らせることがなくなってしまいました。そうしたなか大阪に目をやると、『大阪維新の会』ってなんだかよく分からない(!?)けれど、大阪の政治状況を変えようと躍起になる人たちがいて、民意もかなりヒートアップしているようですが伝わってくる。東京都民は大阪で低成長経済や円高による生産拠点の海外移転、人口減少といった閉塞感が長らく募っていることも分かっています。大阪で知事や市長が変わった結果のよし悪しは別として、これを機に大阪の政治改革が国政にも波及し、日本の何かを変えてくれるだろうという期待を持っています。

しかし一方で、ひょっとしたら民主党と同じような結果になるのではないかとこの危惧も拭えません。つまり、橋下市長や松井知事が何かを変えてくれそうだという期待感是非常に強いのですが、その政治目的は現状を壊すことが中心であり、大阪の未来設計図がちゃんと用意されているのかどうか分からないからです。さらに、具体的な施策を実現するための知恵袋がどれほどいるかも分かりません。こうしたことがしっかり機能すれば、府民、市民の期待に応える政治改革が実現するでしょう。そうして大阪から地方政治のあり方が変わること国政も動き、それによって日本の閉塞感を打ち破ってほしいと願う東京都民も多いと思います。

## Q3. 東京への一極集中を解消する秘策はあるでしょうか。

A3. 東京一極集中を避けるために、“遷都”もひとつの方法だと思います。

私は完全に遷都するのは難しいとは思いますが、皇室が一時的にでも京都にお住まいを移されても良いのではないかと考えています。ただし、誤解のないようはっきりと申し上げますが、私は政治的には右翼でも左翼でもまったくない。“ノンポリ型”です。天皇が京都から東京にお住まいを移されたのは、明治維新の一時的なものでした。東京都は、東の京都だというわけですね。私はたまたま何度か皇居をお訪ねする機会がこれまでにあったのですが、大都会で極めて近代化が進んだ東京の、それもど真ん中にあるにもかかわらず、皇居内の自然環境は豊かで、天然の原木、大きな蓮の花や葉がうっそうと繁り、昼なお暗しで、まるでタイム・マシーンに乗ったかと錯覚するほどです。そうしたお住まいで、しかし一歩外に出れば雑踏だらけの東京に周囲をまるで取り囲まれていて、そんな中、「国事行為」の回数が激増していると聞きます。なにかお気の毒にさえ思いました。

## お話を聞き終えて

堀井良殿

朝のNHKラジオ(第一)の『ラジオあさいちばん』という番組のなかに、『ビジネス展望(月～金:6時43分頃)』というコーナーがあり、毎回さまざまな方が経済や財政についてお話をされています。中北先生もその解説を担当されており、私は先生の的確な問題提起とクリアな解説を聴いて一度で中北ファンになりました。そこで今回は、先生からは是非直にお話をお伺いしたいと思い、はるばる東京から大阪21世紀協会

にお越しいただいたというわけです。中北先生には、日本がアジアのゲートウェイとなるために必要な人材育成のあり方や東京経由でないグローバル化、さらには中国バブルの行方や遷都論まで、多岐にわたる貴重なご意見を伺うことができました。この度はどうもありがとうございました。



2011年12月7日/大阪21世紀協会・21cafeにて

## 中北 徹(なかきた とおる) 氏

1951年、愛知県出身。74年、一橋大学、および、英国ケンブリッジ大学の経済学部両大学院卒業。外務省(経済局首席事務官)を経て、82年に退官。現在、東洋大学理事兼経済学研究科教授。この間、日本銀行国際局アドバイザー、東洋大学経済学研究科長などを経て、2006年、安部総理官邸「アジア・ゲートウェイ戦略会議副座長」、(財)日本水道工業連合会「首都圏水循環委員会」副座長などを歴任。09年より現職。2010年北京大学東アジア研究所・学術委員。現在、NHKテレビ「視点・論点」、同ラジオ「ビジネス展望」などを担当。主著『国際経済学入門(筑摩新・1996年)』『世界標準の形成と戦略(日本国際問題研究所・2001年)』『入門国際貿易(ダイヤモンド社・2005年)』など。



文弘宣氏とINAC神戸レオネッサの  
マスコット「らいむちゃん」



万城目 学氏



関西元気文化圏賞主催者と受賞者



## なでしこジャパン・澤選手らを輩出 INAC神戸レオネッサが大賞 関西元気文化圏賞贈呈式

起こそうと呼びかけ、関西の各府県や経済団体、報道機関などが賛同してはじまった。同年8月には小泉純一郎総理大臣(当時)を迎え、推進組織である「関西元気文化圏推進協議会」の設立総会が行われた。以来、官民の垣根を越えた協力体制のもとさまざまな文化活動を展開し、関西文化圏の一体化・活性化の推進に取り組んでいる。

出せるよう頑張っていきたい」と所属する澤選手らの健闘を讃えた。また、万城目氏は「大阪の長い歴史のなかで、あまり語られることがなかった時代の小説も書いて、関西の文化に貢献していきたい」と、今後の抱負を語った。

今年、関西からオリンピック選手がからくり優勝は久しぶりで、関西ととりわけ神戸の方々には非常に喜んでいただいた。

関西元気文化圏推進協議会(自治体、経済界など107団体)は1月23日、「平成23年度関西元気文化圏賞」の大賞に、なでしこリーグ所属の女子サッカークラブ「INAC(アイナック)神戸レオネッサ(神戸市)」を選び表彰した。また、特別賞は山本能楽堂、ニューパワー賞は作家の万城目学さんらに贈られた。

同賞は、その年に文化を通して関西から日本を明るく元気にした人や団体に感謝するとともに、一層の活躍への期待をこめて平成15年度から毎年贈られている。シエラトン都ホテル大阪で行われた今回の賞贈呈式は文化庁芸術祭(関西地区)と合同で開催され、近藤誠一文化庁長官らが列席のもと、森詳介関西元気文化圏推進協議会会長(関西地域振興財団会長)から各賞の受賞者に賞状と記念盾が贈られた。その後の祝賀会で株式会社アイナックコーポレーション代表取締役会長兼CEOの文弘宣氏は、「クラブ設立10周年(平成23年)」という記念すべき年に、選手たちのこれまでの努力にふさわしい結果が出せた。とくに関西圏

### 平成23年度受賞者と贈呈理由



#### INAC神戸レオネッサ

**大賞**  
2011FIFA女子ワールドカップの日本代表チームに主将ら7人の選手を輩出して初優勝。同年のなでしこリーグでも初優勝。日本女子サッカー界のみならず、東日本大震災で甚大な被害を受けた日本国民を元気づけた。



#### 公益財団法人山本能楽堂

**特別賞**  
伝統芸能である能の伝承と普及に対する功績は大きい。「上方伝統芸能ナイト」は100回記念公演を成功させた。2009年の大阪・八軒家浜での新作能「水の輪」は、同年11月にブルガリア公演を行い好評であった。



#### 大阪ステーションシティ

**ニューパワー賞**  
平成23年5月、「アート解放区」などのギャラリーを開廊するJR大阪三越伊勢丹や専門店が集まるLUCUA、8つの庭園など、大阪の新たな名所をオープンし、大阪・関西の魅力を発信する拠点として期待される。

#### スーパーコンピュータ「京」の開発チーム

理研と富士通が共同開発した「京」が、平成23年6月の国際スーパーコンピューティング会議で、処理性能で世界1位を獲得。日本の技術力の高さを世界に示すとともに、医療や防災分野での高度な運用も期待される。

#### 尾野真千子(女優)

大阪・岸和田出身のファッションデザイナー・小篠綾子をモデルにしたNHK連続テレビ小説『カーネーション』でヒロインを演じ、大阪のものづくり文化や温かく活気のある関西のPRに大きく貢献した。

#### 万城目 学(作家)

直木賞候補となった小説「プリンセス・トヨトミ」は、大阪の街や歴史を織りまぜながらコミカルに描き、映画化されると観客動員数100万人を超える大ヒットになるなど、大阪を中心に明るい話題を提供した。



# イギリス文化振興視察報告



平成23年9月2日から8日間にわたって関西経済同友会 歴史文化振興委員会の視察団に参加し、イギリスの文化振興の現状を視察した。

文化は活力の源泉であるというだけでなく、自己の存在をかけて必須不可欠なものとして真正面から文化に取り組んでおり、関西・大阪の地域活性化のためにも極めて重要な手掛かりが得られた。

大阪21世紀協会 理事長 堀井良殷

エディンバラ市街

## 文化にかける思いの強さは“本気”

イギリスのなかでも北部のスコットランドが文化振興にかける思いは半生可なものではない。それこそ本気で真正面から取り組んでいる。その理由は自分(スコットランドという地域と民族)がここにいるぞという強烈な自己存在の主張である。

イングランドとスコットランドでは歴史や文化、つまり地域のあり方そのものが違っており、スコットランドはつい最近大幅な自治権を獲得しさらに完全独立をめざしている。その誇りをかけてスコットランドここにありという叫びを、イギリス国内をはじめ世界に向かって発信しているのだ。これは日本においても西日本の首都として際立った個性をもつ大阪の在り方と共通点

があり、その文化振興策は参考にすべきだと思った。

わずか人口510万人のスコットランドが公共文化団体に投ずる年間予算額は112億円である。そのうち75億は国と地方政府から支出されている。しかも付加価値税20%の財政状況においても国民の理解を得て支出されている。日本の事業仕訳のやり方とはあまりにもかけ離れた考え方だが、こちらのほうがヨーロッパでは常識であり、文化を真っ先に効率化の槍玉にあげるような社会に未来は開けないと実感させられた。

スコットランド地域の納税額だけでは財政を賄いきれないため、今は交付税をイングランドから貰っているが、たとえそれが貰えなくなっても完全独立をめざすのだという。まさに「団子よ



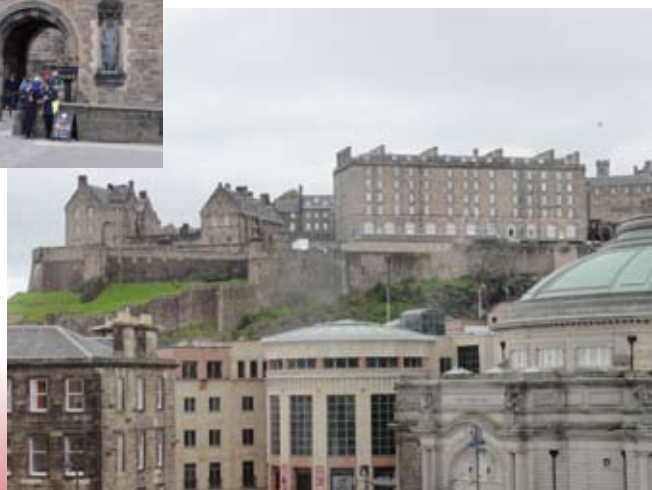
各地から集まったアーティストたち



エディンバラ城と城の入口  
この広場で有名なミリタリー・タトゥが開かれる



エディンバラ市街には観光客が  
世界から押し寄せる





り花]である。民族の自立と誇りへの意欲は必死の趣さえ感じる。だからその基盤をなす伝統と文化は社会のあらゆる場面で絶対不可欠であり、振興し、次世代に伝える努力をしている。

## 文化は投資と考える

“文化への支出は投資である”という言葉が繰り返し聞かれた。

エディンバラという中世の街並みを残すスコットランドの首都も、ただそれだけでは単なる古いくすんだ北部の一地方都市にすぎない。悪くすれば廃墟の街にさえなりかねない。そこでエディンバラ・フェスティバルを立ち上げた。一年を通じて12の芸術と文化の祭典がくり広げられ、人口48万人の街に年間350万人の観光客が押し寄せ経済効果は2億4500万ポンド(約290億円)、加えて5420件の雇用を創出し、市民が誇りを持つことによってクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)はイギリスの1位にランクされている。しかも国際的知名度が高く世界各国から2万人のアーティストが参加、メディア関係者が2000人規模で集まり、さらに有望なアーティストを発掘しようと1000人もプロデューサーや映画演劇のディレクターが集結する。

住民の94%がフェスティバルによって生活水準が上がりが子供の教育に寄与していると回答、多くの文化ボランティアが参加し、地域や社会への貢献力を強めている。

## 権力は文化に直接かかわらない! “アームズレングスの法則”

ナチスが文化を権力基盤強化に使ったのは有名だが、ヨーロッパではその教訓から権力、つまり政治や行政は直接文化を手づかみしないという原則が徹底している。アームズレングスの法則、手の腕の長さだけ距離感をもって接するのである。文化は人類6000年の叡智と感性の集積であり、それを享受し何らかの創造を加えて次世代に引き継ぐ責任が現世代にはあり、そのために税金が一定割合投入されるべきであることは当然であるが、それをどう活かすかは民間人や専門家に任せてい

る。いわゆる官はカネは出すが口は出さない鉄則があるのだ。

## アーツカウンシルと文化宝くじ

“あらゆる人に素晴らしい芸術を”“次世代に伝統と文化を引き継ぐために”という目的で中心的な役割を果たしているのはアーツカウンシルである。行政から独立した組織で民間の専門家集団が携わる。文化を支援し、育成、次世代への継承を推進し、さらに評価と検証を厳正に行う。

イギリスのアーツカウンシルは1946年からの長い歴史があり、財源は政府と自治体の助成金、企業団体の寄付、個人献金などからなる。いまひとつ大きな財源が宝くじである。市民の幅広い関心呼び起こし、寄付文化を面白く興味をもって根付かせる一つの方法ではないだろうか。

視察から得られたヒントを生かすとすれば、まず大阪の文化による活性化のため、民間主導によるアーツカウンシルの設立を強く推したい。そして、その財源として文化宝くじを提案したい。

## 大阪キャッスル・フェスティバル

世界の注目を“大阪ここにあり”として集めるには、まず文化である。そして経済が両輪としてまわってゆく。そのための文化資産はたっぷりある。活かしていないだけだ。例えば、1500年都市のエッセンスが重層的に蓄積されている上町台地の大阪城エリアは世界の注目を集めるに足る場所であり、名だたるヨーロッパの歴史都市と比べても遜色はない。10年でエディンバラ並みの成果をめざすのもあながち夢ではない。目標を掲げ、実現への手順を定め、みんながその気にさえなれば出来ることなのだ。出来るとうわかっていて、しないというのでは情けない。平成24年のたんなる初夢に終わらせないために、是非とも実現へ一歩踏み出してゆきたい。



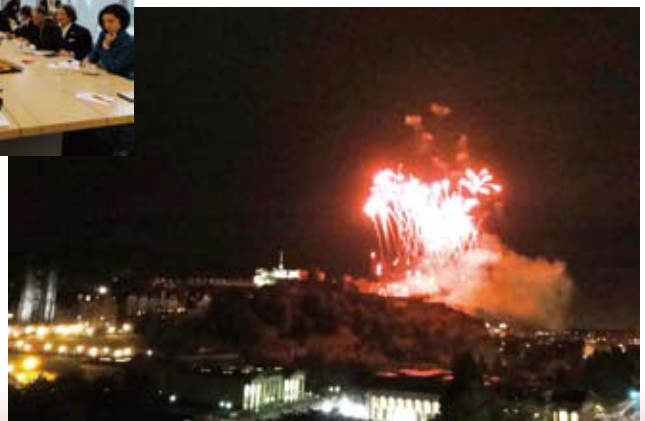
バグパイプ演奏



スコットランド国立美術館での美術展示



関係者へのヒアリング風景  
(クリエイティブ・スコットランド)



フィナーレはエディンバラ城での花火とオーケストラの競演

## 千島土地株式会社 代表取締役社長 芝川能一氏に聞く

芸術文化振興に高く貢献したメセナ活動に贈られる『メセナアワード2011(公益社団法人企業メセナ協議会)』で、昨年10月、千島土地株式会社が取り組む『北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想』が大賞を受賞した。アートで地域を活性化しようというこの構想や、同社のメセナ活動への思いについて芝川社長に伺った。

### ●『北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想』とは？

当社が北加賀屋(大阪市住之江区)に所有する名村造船所大阪工場の遺構や空家などを創造活動の場としてアーティストやクリエイターに提供し、当社の経営地ひいては地域全体を芸術文化の創造・発信拠点として活性化させる取り組みです。

きっかけは2004年、劇場プロデューサーの小原啓渡氏から、造船所跡地の遺構を芸術創造に活用させてほしいとの申し出があったことでした。土地賃貸業を行う当社としては、経営地を活用して地域の活性化や魅力向上に役立つなら望むところでした。そこで同年9月、名村造船所大阪工場跡地で30年間にわたって新しい芸術について考える『NAMURA ART MEETING'04-'34』

の第一回開催を機に、2005年にはこの跡地を恒常的な創造の場として活用するため『CCO(クリエイティブセンター大阪)』を開設しました。

CCOでは、名村造船所跡地の廃倉庫や廃工場を改装して音楽スタジオや劇場、ギャラリー、カフェなどに再活用しています。また管理者が亡くなって空家になった近隣の古い旅館を引き取り、アーティスト専用の宿泊施設『AIR大阪(アーティスト・イン・レジデンス大阪)』として運営しています。AIR大阪は共同のリビングやキッチンなどを設けて長期滞在を可能にし、ツアー公演の拠点や滞在型アトリエとして国内外のアーティストの好評を得ています。また、音楽や作品展などのイベントを開催し、地域の方々との交流の場

# 遊休不動産を活用して アートの力で魅力あるまちづくりを





にもなっています。こうして北加賀屋エリアから美術、演劇、音楽、映像などを発信することで、「行ってみたい」「住んでみたい」と思われるような魅力あるまちづくりを目指しています。

また、名村造船所大阪工場跡地が経済産業省の近代化産業遺産群のひとつに認定されたのを機に『近代化産業遺産(名村造船所大阪工場跡地)を未来に活かす地域活性化実行委員会』を立ち上げ(2009年)、現在、行政や地域住民、地元企業、各種団体など総ぐるみで活用を検討し、活性化イベントなども開催しています。そうしたなかでのメセナ大賞受賞は、官民協働の活動を促進するもので非常にありがたく思っています。

### ●古い建物をそのまま活用するメリットは?

当社が北加賀屋エリアで所有する遊休不動産は、かつては建て替えるか更地にして駐車場にすればいくらでも需要がありました。しかし4~5年前をピークに収益が頭打ちになってきたため、投資を控え古い建物を空家のまま残しておきました。建物があれば固定資産税は更地に比べて6分の1ですみますからね。とはいえ空家のままでは建物が早く傷みますから、アーティスト専用の家賃を低くして提供することにしました。

テナントの方々には、引越すときも原状回復不要で好き勝手に使えるようにしたため非常に喜ばれ、アーティスト仲間の口コミで入居者も増えました。建物の維持管理も入居者がやってくれますから、当社の手間や維持管理が抑えられるというメリットがあります。自分たちで改装したり作品を残して帰ってくるアーティストもいて、建物自体がアート作品のようになっていくところもあります。古い空家は不動産事業としての価値はありませんが、それがアーティストやクリエイターの手にかかることで、私たちには思いもよらない新たな価値が創造されるんです。

### ●北加賀屋エリア以外の地域創生・社会貢献事業は?

当社が所有する大阪船場の『芝川ビル(中央区伏見区)』を保存・活用しています。これは1927年に建てられた近代建築で、現在も竣工時の姿をほとんど変えていません。とはいえこうしたビルは間口が狭く重厚感があるため、どこことなく近寄りたがいの雰囲気があります。そこでビヤガーデンやミニコンサートなどを開いたり、女性が気軽に入りやすいショップをテナントに選定したりして、立ち寄りやすくしました。建物の稼働率だけを考えていればビルに個性がなくなり、人々の関心を集めることはできません。まちの活性化は建物を持っている者だけでできるのではなく、それを使う

人たちの手によって建物が生き、まちの活力につながるものだと考えます。

また、水都大阪2009の八軒家浜会場に浮かべた巨大なアヒル『ラバー・ダック』も、当社の事業です。オランダの若手アーティストの作品で、とくに子どもたちに見てほしくて当社が全額出資して設置しました。10メートル近い巨大なアヒルに驚いた子どもたちには、大人になって「大阪にはこんなアート活動があった」と思い出してほしい。当社は、こうしたアーティストの活動を支えるプラットフォームとして貢献したいと思っています。ちなみに水都大阪2009では、レプリカのミニチュアを1個1,000円・1,500個限定で販売したところ、あっという間に完売しました。孫にせがまれば財布のひもも緩くなるんですね。その他のグッズ販売も含め、予想以上の売れ行きに驚きました。

### ●これからのメセナ活動のあり方についてのお考えは?

フランスでは、最高19.6%の消費税(付加価値税)によって、各地方の文化振興費を賄っています。かつて同国の文化大臣だったアンドレ・マルロー氏は、「アーティストの力で国を建て直してほしい」といっています。現在の日本の政治状況ではフランスのような文化施策は期待できそうにありませんので、企業が身の丈に応じた方法で民間力を発揮し、継続可能なメセナ活動を行うことが大事だと思います。その際、企業が一方的に資金負担するだけでは、長続きさせるのは難しいでしょう。北加賀屋のプロジェクトは、アーティストの発信力を借りることで地域の魅力を高めるもので、いわば継続を目的としたギブ・アンド・テイクのメセナ活動です。

大阪が東京を意識しすぎるのもどうかと思います。当社では、今さら東京の不動産マーケットを狙ってもマイナーなところしかなく、高収益にはつながらないと考えています。だから当社の主軸となる航空機賃貸事業でも、東京をパスして直接海外企業と取引しています。メセナ事業についても同様で、大阪から直接海外に情報発信することで、海外の人から「日本に行くなら、大阪の北加賀屋に寄ってみよう」と言ってもらえるようにしたいと思っています。

また、当社は2011年11月に株式会社設立100周年の記念事業として、『一般財団法人おおさか創造千島財団』を設立しました。今後は活動範囲を大阪府域に広げ、創造活動に対する助成事業などを展開していく予定です。

#### 芝川能一(しばかわ よしかず)氏

1948年兵庫県生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業後、住友商事を経て1980年千島土地入社。2005年社長。大阪土地協会副理事長。クリエイティブオオサカ(大阪創造都市市民会議)発起人。



名村造船所大阪工場跡地での野外イベント  
(大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55)  
写真提供: クリエイティブセンター大阪



芝川ビル  
(大阪市中央区伏見町 3-3-3)



AIR 大阪  
(大阪市住之江区北加賀屋 2-9-19)



ラバー・ダック  
(水都大阪 2009 / 大川・八軒家浜)



#### 千島土地株式会社

大阪市住之江区北加賀屋2-11-8

土地賃貸事業、建物賃貸事業、航空機賃貸事業、地域創生・社会貢献事業ほか。  
1912(明治45)年設立。資本金4,800万円。従業員21名。

河野里美さんに新設「大阪21世紀協会賞」

## アートストリーム2011 イン 心斎橋

平成23年10月6日～10日(大丸心斎橋店北館イベントホール)

関西で活躍する優れた新進アーティストを発掘する『アートストリーム』が、昨年11回目を迎え、大丸心斎橋店の協力を得て新しいスタートを切った。

今回は、絹谷幸二氏(画家・大阪芸術大学教授)や箕豊氏(兵庫県立美術館館長)ら審査員による「アートストリーム大賞」「同奨励賞」を新設したほか、アーティストの活動をバックアップする「企業・ギャラリー賞」を拡充。さらに、企業に対してデザインを提供する「デザインオファー権」を副賞とする「大阪21世紀協会賞」と「がんこフードサービス賞」も新たに加えた。大阪21世紀協会賞を受賞したカラー影絵作家の河野里美さん(大阪在住)は、アートストリームに過去5回出展経験があり、「現在は作家活動が中心だが、これを機により多くの人に喜んでもらえる仕事ができる期待がふくらんだ。とてもありがたいこと」と受賞の喜びを語った。また、大賞にはアストロ温泉さん(高校非常勤講師)の動くオブジェ『アストロ温泉ラボラトリー』が選ばれた。

アートストリーム2011は公募131組の中から選考を経て57組が出展。クオリティーの高い展覧会・アートマーケットとして知られ、今回は5日間で延べ3,300人の来場者で賑わった。

河野里美さんと作品



会場風景

アストロ温泉さんと展示

大阪市内を航行する全種類の船舶が一堂に

## OSAKA水上音楽パレード2011

平成23年10月23日(大川・八軒家浜界限、道頓堀川)

大阪市内の河川を航行する観光船や荷役船、警備船など全種類の船舶が大川に集結し、吹奏楽に合わせてパレードする『OSAKA水上音楽パレード』。第3回となる昨年は、小雨が降るあいにくの天候にもかかわらず約2,700人の見物人で賑わった。

オープニングセレモニーでは、桂小春團治さんによる当地ゆかりの落語『三十石夢の通り路』に合わせ、淀川三十石船唄大塚保存会会長の市川廣さんが『淀川三十石舟歌』を披露。「名物あんころもちにころもん寿司、茶碗酒にごんぼ汁、食らうなら銭が先じゃい」と、明治10年頃まであった“くらわんか船”の口上を再現した。その後、大阪国際滝井高校、四條畷学園高校の吹奏楽部の演奏に合わせて、さまざまな船舶が大川をパレードした。

昨年は大災害に見舞われたこともあり、「水都大阪の安全・安心」をテーマに、大阪市消防局による救難訓練も実演。災害時に川や船舶が果たす重要な役割をアピールした。フィナーレは東日本大震災の被災地の一日も早い復興を願って鳩風船を放天。その後、大阪市立扇町総合高校吹奏楽部や陸上自衛隊音楽隊を乗せた音楽船が大川に向かい、戎橋付近で『MINAMI JAZZ WALK2011』参加のジャズバンドと競演し、道頓堀を川べりから盛り上げた。



大阪国際滝井高校吹奏楽部(棧橋)と陸上自衛隊音楽隊の音楽船(大川・八軒家浜)



桂小春團治さん(左)と市川廣さん(右)



道頓堀川で演奏する大阪市立扇町総合高校吹奏楽部



大阪文化祭賞受賞者の特別公演と交流会

## アート・アSEMBリー 2011

平成23年11月18日(クラブ関西)

大阪コレギウム・ムジクム

音楽や演劇など芸術分野の人材育成を目的として、大阪・関西を拠点に活動する優れたアーティストに発表の機会をつくる『アート・アSEMBリー』。今回は、2011年度の大阪文化祭賞グランプリを受賞した当間修一氏率いる大阪コレギウム・ムジクムと、大阪文化祭賞を受賞した能楽師 大蔵流狂言方 善竹隆司氏、善竹隆平氏による特別公演が行われた。

大阪コレギウム・ムジクムは室内オーケストラと合唱団からなり、1975年に創設。いずみホールでの定期公演など大阪を中心に各地で活発な演奏活動を続け、5回にわたるドイツ・

ヨーロッパ公演でも大絶賛を得ている。CDのリリースも多く、レコード芸術誌で数度アカデミー賞にノミネートされている。今回は当間氏の指揮による混声合唱で、『埴生の宿』をはじめ、武満徹作曲『翼』、柴田南雄作曲『追分節考(おいわけぶしこう)』(シアターピース作品)などが演奏された。

善竹氏は二世善竹忠一郎氏の長男(隆司)と次男(隆平)。2003年より兄弟で『善竹兄弟狂言会』を主宰し、兄弟で兵庫県芸術奨励賞(2003年)や大阪文化祭奨励賞(2006年)などを受賞している。また、兄・隆司氏は手塚治虫作品や大阪ゆかりの新作狂言の制作にも意欲的に取り組んでいる。今回は主人の言い付けを勘違いした太郎冠者が客人に粗相を繰り返す滑稽な演目『口真似(くちまね)』を上演。さらに特別企画として、狂言と混声合唱のコラボレーション『猿楽談義』も披露され、参加者は新たな音楽世界の魅力に引き込まれた。

演奏後の交流会には、アート・アSEMBリーの発起人である平松邦夫大阪市長(当時)も来場し、「こうした活動が、小さな子どもや芸術に触れる機会の少ない人など、より多くの人を目覚めさせ、国境のない芸術の世界を実現されることを願う」と挨拶した。

アート・アSEMBリーは、街なかに大人の知的な好奇心と学習欲求を満たす場をつくり、街の活性化に結び付ける市民運動『21世紀の懐徳堂プロジェクト(大阪市、大阪大学、ナカノシマ大学、大阪21世紀協会)』の活動のひとつで、アーティスト支援の輪を広げている。



善竹隆平氏(左)と善竹隆司氏(右)



大阪コレギウム・ムジクムと善竹隆司氏とのコラボレーション



### 「公益財団法人 関西・大阪21世紀協会」発足へ

文化による地域活性化を目的に、民間非営利法人として公益目的事業を展開する大阪21世紀協会は、この度の法人制度改革にともない、内閣府に対し2012年4月より公益財団法人へ移行すべく申請手続きを行っております。

公益認定を契機に、当協会は、大阪を中心に関西一円を対象とした広域的な事業を行うことを改めて明確にするため、「公益財団法人 関西・大阪21世紀協会」と名称を変更することにしております。

また、1982年4月に国際的で文化的な「世界都市・大阪」の創生をめざす「大阪21世紀計画」の推進母体として設立され文化立都をかかげて活動を展開してきた当協会は、今年で設立30周年を迎えます。この度、新たに公益財団法人の認定を受けて、より一層文化の振興を通じて都市の国際的な知名度の向上や人材の育成を図り、関西・大阪の経済、社会の活性化に寄与したいと考えております。

## 交流サロン21cafe

『21cafe』は、関西を中心に文化的活動に携る方々をお招きし、毎回さまざまなテーマでお話を伺うとともに、文化に関心をお持ちの方々の交流の場として開催しています。

### 関西の国際化をいかに進めるか！

ゲスト 楠本祐一氏(外務省特命全権大使<関西担当>政府代表)  
平成23年10月24日(大阪キャッスルホテル)

楠本氏は冒頭、ハバロフスク総領事(2001年)や在ポーランド特命全権大使(2009年)などの外交官経験をふまえ、関西の国際化を進めるには、世界の趨勢と日本の現状を認識した上で課題設定すべきであると指摘。環境、エネルギー、食糧などのグローバルな問題が顕在化する国際社会は、欧米が主導権を握っていた時代とは異なり多極化または無極化していることや、日本は高齢化や低賃金、若年層の職不足などの先行き不安から消費が低迷しているにもかかわらず、がんばればもっと経済成長できるといふ“高度経済成長神話”から脱却できていないことなどを認識すべきだとした。

その上で、「関西は世界から、パナソニックやシャープなど日本を代表する企業の存在によって高い経済力を持つ地域で、環境や医療分野でも最先端の科学技術力があると見られている。加えて長い伝統のなかで育まれた文化力が工業デザインなどの日本製品にも活かされ、“クールジャパン”と高く評価されている」と紹介した。楠本氏は、こうした認識の上で関西が世界に対する発信力を高めるには、「関西とは何か」を明確にし、「人や企業を関西に呼び込む」「国際会議や学会を開催し優れた人材を集める」「英語をはじめとした語学力の向上」「神道や仏教、武士道、茶道など外国人の心に訴える関西文化の魅力をもPRする」ことが重要だとした。



### 知られざる大阪夏祭りの魅力

ゲスト 中田紀子氏(エッセイスト、帝塚山大学講師)  
平成23年11月29日(大阪キャッスルホテル)

生根神社『だいがく祭り(昨年7月24日～25日)』、生國魂神社『いくたま夏祭り(同7月11日～12日)』、住吉大社『住吉祭り(同7月海の日、30日～8月1日)』を取り上げ、元NHKカメラマンの橋山英二氏が撮影した映像を見ながら、それらの起源や祭りに関わる人々の思いなどが紹介された。

こうした例大祭の開催日は変えないのが慣例あるが、近年は人手不足で神輿を担ぐ若衆が少なくなり、日曜日や国民の休日に開催されるなど、祭りの形も変わってきている。『だいがく祭り』では、“だいがく(台楽または台額)”と呼ばれる高さ17mの巨大な出し物を若衆が担ぐ勇壮な祭りであるが、江戸末期には玉出に14基あったが、戦火で焼失するなどの理由で減少し、現存するのは当社の1基のみ。現在は、規模を小さくした2基のだいがくと、子ども用のだいがくが作られ使用されている。

また、昭和初期まで千人を越える陸渡御列で賑わった『いくたま夏祭り』は、戦火で御鳳輦(ごほうれん:御祭神の乗物)などは焼失したものの、往時の伝統を今に受け継いでいる。

「開催日や形が変わろうとも、皆が神に接することを喜ぶ気持は変わらない。その喜びを共有することで連帯感が生まれ、ひいては地域の人々の助け合いにつながる」という中田氏。若者たちは幼い頃から大人のように祭りに参加することに憧れて成長し、祭りに参加することで地域の一員としてのアイデンティティを得る喜びがあると強調した。



だいがく祭り





## 上方浪曲界の大看板が目指すこと

### 自分も酔いしれる瞬間

「賞金が付いてるんやったらもろとこか」。昨年12月の『師走浪曲名人会(国立文楽劇場)』で京山幸枝若氏は、そう言って満場の客を笑わせた。平成23年度大阪文化祭賞の受賞をスタッフから知らされたときの話。『第53回上方演芸特選会(平成23年5月16～19日/国立文楽劇場)』で口演した左甚五郎シリーズが、“ケレン物(滑稽話)に非凡な手腕を発揮し、しかもまだこれから頂点を極める余裕すら感じさせた”と、審査員の高評を得た。

「長い芸能生活でじつに光栄なこと」という幸枝若氏は、今年でデビュー41年目。昭和46年に17歳で実父の先代(初代京山幸枝若:1926～1991)に入門し、平成16年に二代目京山幸枝若を襲名した。左甚五郎シリーズのようなケレン物もさることながら、十八番といえ、先代ゆずりの『会津の小鉄』に代表される侠客物。義理人情の心理描写や鬼気迫るシーンをドラマチックに表現するためには、なにより節(曲)が肝心で、啖呵(セリフ)に高い節が上手く乗り、客が身を乗り出す瞬間は自分も酔いしれるほどと話す。まさに浪曲の真骨頂

であるが、これを上手く聴かせるのは40年を超える芸歴をもってしても難しい。だからこそやりがいがあり、それを極めることを目標にしているという。

### 野球のユニホームを着て口演

昭和40～50年代、関西では浪曲四天王といわれた京山幸枝若(先代)、真山一郎(初代)、春野百合子(二代目)、富士月の栄が人気の絶頂期にあった。とりわけ先代は『浪花しぐれ』『会津の小鉄』などの歌謡曲も大ヒットさせ、テレビコマーシャルにも登場するほどの人気ぶり。しかし幸枝若氏(当時は京山福太郎)は、当時こうした浪曲ブームに疑問を抱いていた。浪曲ブームではなく、幸枝若ブームではないかと。事実、昭和50～60年代にかけて笑福亭仁鶴や横山やすし・西川きよしに代表される落語や漫才の人气が高まると、若い客層から浪曲は「堅苦しい」と誤解され、敬遠されるようになった。

「あるとき梅田花月で、自分の出番に備えて浪曲のセットが準備されると、お客さんは休憩時間とばかり一斉に出て行きました。客席はガラガラで、拍手もありません」。そんな悔しさに一計を案じた幸枝若氏は、以後、自分の出番になると舞台に見台と座布団を出し、あたかも落語がはじまるように見せかけて客をつなぎとめたという。そうして落語の出囃子で登場し、座布団に座って節をほとんど入れずにケレン物をしたら、これが大いにうけた。またあるときは、野球のユニホームを着てジャイアンツの帽子を被り、手にバットを持って自作の『王貞治物語』を口演したこともあった。すべては浪曲の面白さを知ってもらいたいがためであった。

### 知らないとは言わせない

昭和初期、大阪には浪曲の定席が36軒あり、200人以上の浪曲師がいた。しかし、今や定席といえるのは一心寺門前浪曲寄席(天王寺区)と、みなと寄席(港区)の2軒。常時活動している浪曲師と曲師(三味線)は合わせて20人に満たない。

「(浪曲を)嫌いと言わせても、知らないとは言わせたくない」。公益社団法人浪曲親友協会会長として、新たな浪曲ファンの獲得は最大の課題だという。そのためには若手浪曲師の育成と活躍の場を増やすことが不可欠。そこで幸枝若さんは、春野恵子や幸いってん、一風亭初月、菊池まどかななどの若手浪曲師と曲師だけでユニットの結成(平成19年)を勧めたり、昨年11月には『京山幸枝若が春野恵子をシゴク会』を行い、自身は春野恵子の前に出演して若手の盛り立て役に徹するなど、かつてないケレン味の効いた取り組みを行っている。ちなみに同公演は1週間(10公演)で400人の集客があり、半数は浪曲を初めて聴く20～40代の若い客であった。また、今年の新春公演(1月4日/阿倍野区民センター)では、自ら台本を書いて若手浪曲師に漫才や音楽ショーをさせ、自身も落語『初天神』を披露。浪曲師のコミカルで多芸な一面を初めて観る人に、新鮮な驚きを与えた。その笑いの渦のなかに同席して、大阪の浪曲界が新しい時代に入りつつあることを実感した。

(ライター 三上祥弘)



二代目 京山幸枝若(きょうやま こうしわか)  
昭和29年兵庫県姫路市出身。昭和46年浪曲界デビュー、同50年吉本興業所属、平成16年二代目京山幸枝若襲名。『浪花華しぐれ』『弥太っぺ情け宿』などの持ち歌も多い。公益社団法人浪曲親友協会会長。

## 当代の人気者がミナミを賑わす 今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」



佳世子さん



大引啓次さんとバファローベル



難波センター街商店街での宝恵駕行列



豊松清十郎さん

1月10日、今宮戎神社(大阪市浪速区)の十日戎に、恒例の宝恵駕行列の奉納が行われた。

午前10時、とんぼりリバーウォーク(戎橋～太左衛門橋)で出発式が行われた後、多くの人が見守るなか、芸妓代表の佳世子氏を先頭に歌舞伎俳優の市川右近氏や文楽人形遣いの豊松清十郎氏、上方舞山村流六世宗家の山村若氏、吉本興業の間寛平氏、NHK連続テレビ小説『カーネーション』出演女優の尾野真千子氏、オリックス・バファローズの大引啓次氏、大阪エヴェッサのケビン・タイナー氏、OSK日本歌劇団の桜花昇ぼる氏らが駕籠に乗り込み宗右衛門町をスタート。「ほえかご、ほえかご」の掛け声とともに、道頓堀商店街や戎橋筋商店街などを経て今宮戎神社まで、約2時間ミナミの街を練り歩いた。

沿道は多くの人で賑わい、「いつもカーネーション見てるよ〜」「今年は優勝を頼むで〜」という声援があがっていた。今宮戎神社に到着した一行は拝殿に参詣したあと福笹を授かり、昨年一年の無事を感謝するとともに、今年一年の商売繁盛を祈願した。

宝恵駕の起源は江戸時代の宝永年間(1704～1711年)といわれ、明治中頃から花街の誘客手段として規模を大きくし、最盛期の昭和13年頃にはミナミの芸者衆が30丁もの駕籠を連ねたこともあった。戦争や社会情勢の変化から昭和18年に中止されたが、現在は地元商店街の協力で復活し、市民参加型の祭りとして再び往時の賑わいを取り戻した。

大阪21世紀協会は、文化資源を活かした関西・大阪のイメージ向上の取り組みの一環として、伝統行事である宝恵駕行列の保存・継承に向けた協力を行っている。

## 北新地に春と福を呼ぶ恒例祭事 堂島薬師堂節分お水汲み祭り



お水汲み(堂島薬師堂)

参拝者の竹筒護符に、奈良薬師寺の僧侶が祈祷したお香水(こうずい)を汲み清め、無病息災と商売繁盛を祈る。堂内には薬師如来像、弘法大師像などの仏像や涅槃図が祀ってある。



北新地芸妓衆の奉納舞(堂島アバンサ会場)



『お化け』で花魁に扮した北新地クイーンのあやかさん(中央)



龍(弁財天の化身)の巡行

2月3日・節分の日、堂島薬師堂(大阪市北区)で毎年恒例の『堂島薬師堂節分お水汲み祭り』が行われた。この祭りは、地元で古くから続いている『節分祭り』と、2004年に地元曾根崎新地や経済界の呼びかけで復興した『お水汲み』をひとつにしたもの。午後3時から堂島薬師堂で『お水汲み』がはじまり、『鬼追い』の町まわりや北新地芸妓衆の奉納舞、龍の巡行、ホステスたちが仮装する『お化け』など、当地ならではの艶やかな行事が夜まで練り広げられた。

主催者の堂島薬師堂奉賛会や地元商店会、企業などをつくる堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会は、この祭りを契機として北新地・堂島界隈を活性化し、ひいては水都大阪の再生につなげることを目指している。



### 後援・協賛イベント

#### 第19回大阪アウトドアフェスティバル2012

アウトドア産業が貢献できる社会的な可能性の発信を目的として、自然と生きるライフスタイルを提案する展示会。◆3月10日(土)～11日(日)10:00～17:00/インテックス大阪/大人1,200円・小学生600円(前売あり※未修学児無料)/問合せ:テレビ大阪事務局 ☎06-6947-1912、FAX06-6947-1941



#### 月清古曲保存会 伝承と育成の為に～第37回地歌と語り～

菊棚月清大検校より伝承の古典地歌箏曲の演奏。『煙草曾我(二世菊棚月清)』『残月(月清古曲保存会会員)』『五段砧(日本箏曲会連盟)』などの演奏を予定。◆3月14日(水)18:20～20:30/国立文楽劇場大ホール/4,000円/問合せ:月清古曲保存会事務局 ☎06-6245-0366、FAX06-6245-0518



#### 関西桐朋会 第46回新人演奏会

平成24年3月に桐朋学園大学を卒業する関西出身者が、今後演奏家として関西で活躍するためのお披露目と関西の文化発展に協力することを目的とした演奏会。◆3月18日(日)15:00～18:00/いづみホール/1,500円/問合せ:新人演奏会代表連絡係 ☎072-684-1230、FAX072-686-2570



#### 小品盆栽フェア「第20回春雅展」

“みんなで楽しく、暮らしの中の小品盆栽”をテーマに、身近に緑を生かした潤いのある暮らしを提案。各種小品盆栽の展示のほか、講習会や素材販売などもあり。日本メダカ協会とのコラボレーション企画『メダカ展』同時開催。◆3月23日(金)～25日(日)9:30～17:00(25日は15:30まで)/水の館(花博記念公園鶴見緑地内)/無料/問合せ:春雅展実行委員会事務局 ☎072-734-1831、FAX072-734-2313



#### 第16回なにわ人形芝居フェスティバル～夕陽丘・花参り～

天王寺区逢阪・下寺町一帯の寺社で人形劇を上演。寺町の歴史・文化を身近に感じてもらい、周辺一帯の活性化と文化振興を図る。◆4月1日(日)10:00～15:30/大阪市天王寺区逢阪・下寺町一帯の寺社、劇場等/フリーパスシール700円(3才未満無料)/問合せ:なにわ人形芝居フェスティバル運営委員会 ☎06-6774-2877、FAX06-6774-4003

#### 「伝統と創意」'12日本書芸院展

文化勲章受章者、文化功労者、日本書芸院会員をはじめ、日本書道界で活躍する日本書芸院役員などの大作を一堂に展示。『魁星作家コーナー』ではオーディションで選ばれた若いスター作家の作品も展示。初日には桂春團治さんによる記念講演会も開催(要事前申込)。◆4月17日(火)～22日(日)10:00～17:00/大阪国際会議場3階特設会場/無料/問合せ:公益社団法人日本書芸院事務所 ☎06-6945-4501、FAX06-6945-4505

#### バリアフリー2012

高齢者・障がい者の生活を快適にする福祉機器・製品をはじめ、総合的な福祉情報を発信。◆4月19日(木)～21日(土)10:00～17:00/インテックス大阪/無料/問合せ:バリア

フリー展事務局 ☎06-6944-9913、FAX06-6944-9912

#### アマチュアクラシックフェスティバル2012 ピアノ・声楽コンクールin OSAKA

意欲あるクラシック愛好家に、経歴や年齢を問わず出場できる機会を提供。本コンクールを契機に、プロを目指す音楽家の育成や府民のクラシック音楽への関心を喚起。◆4月28日(土)13:00～16:00/ザ・フェニックスホール/鑑賞入場・前売2,000円、当日2,500円、小中高生・前売当日1,000円、未就学児・前売当日500円/問合せ:KOSMA音楽愛好会 ☎078-646-9001、FAX078-646-9002

#### 2012日本民謡ジュニアフェスティバル全国大会

郷土愛を育み、民謡文化の伝承と歌唱力の保持を目的とした、幼児から中学生までの民謡全国大会。75歳以上の高齢者と子どもたちが一緒に歌う企画もあり。◆4月29日(日・祝)10:00～17:00/大阪府立中央図書館ライティホール/入場無料(整理券発行)/問合せ:(社)全大阪みんよう協会事務局 ☎・FAX06-6757-7051

#### 第57回新世紀展・大阪展

第57回新世紀展・大阪展は大阪支部構成員の絵画、版画等の作品約155点と東京展からの巡回作品約75点を展示。作者と鑑賞者の交流、大阪における芸術文化の発展に寄与。◆6月5日(火)～10日(日)9:30～17:00/大阪市立美術館/有料/問合せ:大阪支部・芦田 ☎090-8236-6599、FAX077-564-6558

#### SIGN EXPO 2012 (第27回広告資機材見本市)

サインという分野にとどまらず、音や光などを含む新しい情報広場。新時代のライフスタイル・デザインのありかたについて出展者と来場者が共に考え、関連業界の市場活性化をめざす。◆6月13日(水)～15日(金)10:00～17:00/ATC(アジア太平洋トレードセンター)ホール/無料/問合せ:近畿屋外広告美術組合連合会 ☎06-6776-8118、FAX06-6776-8055

※イベント内容の詳細については、各問合せ先にお問合せください。  
※ここに紹介する以外にも、大阪21世紀協会は多数のイベントなどを後援しています。

#### 大阪21世紀協会賛助会員へ入会のお願ひ

大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口でも結構です)

- 法人会員一口につき年会費10万円
- 個人会員一口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ(財)大阪21世紀協会 総務チーム TEL.06-6942-2001 FAX.06-6942-5945

# 関西・大阪 文化力会議2012

アジアの文化の多様性こそが、  
新たな価値創出や産業競争力の  
源泉となる!

近年、著しい成長を遂げるアジア諸国にとって、その発展と安定を未来に向けて持続させるためには、文化こそが重要な鍵となります。今回は、そのために日本が選択すべき文化戦略や関西が果たす役割について議論を深めます。

4月25日開催!

参加  
無料

テーマ：21世紀のアジア太平洋と関西(予定)

日時：2012年4月25日(水)9:45～17:30(予定)

会場：グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

主催：(財)大阪21世紀協会、(株)大阪国際会議場、大阪国際フォーラム

後援予定：(公社)関西経済連合会、大阪商工会議所、(社)関西経済同友会、  
経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿地方整備局

## 基調講演(敬称略)

マハティール・ビン・モハマト  
(元マレーシア首相)

「今こそ求められる日本の文化力」



1925年生まれ。シンガポールのキング・エドワード7世医科大学卒業、医学博士。開業医から、1964年に下院議員初当選。教育省大臣、副首相等を歴任し、1981年～2003年、マレーシア第4代首相。2003年、最高位勲章「SMN勲章」及び「トゥン(Tun)」の称号を受ける。

◆コメンテーター 谷内正太郎(元外務事務次官)

細川護熙

(元内閣総理大臣)

「歴史に学ぶ文化力」



1938年東京生まれ。朝日新聞記者を経て、衆参議員、熊本県知事、日本新党代表、内閣総理大臣を歴任。政界引退後、神奈川県の日野「不東庵」にて陶芸を始め、現在は書、水墨、油絵、漆芸なども手がける。近著「胸中の山水」(青草書房(2011年))ほか。

羅鍾一

(元駐日大韓民国大使・漢陽大学校国際学部碩座教授)

「アジア太平洋の安定と  
発展のために選択すべき文化戦略」



1940年ソウル生まれ。ソウル大学校政治学科卒業、同大学院修了、英ケンブリッジ大学政治学博士号取得。慶熙大学校政治外交学教授、慶熙大学大学院長、駐英大使、大統領国家安全保補佐官等を経て、駐日大使、又石大学校総長(第10代)などを歴任。2011年9月より漢陽大学校国際学部碩座教授。

## パネルディスカッション(敬称略・五十音順)

第1セッション「急成長する東アジアの光と影  
— 生き残りをかけた日本の文化戦略」

国分良成 (慶應義塾大学 法学部教授)  
佐藤茂雄 (京阪電気鉄道(株) 取締役相談役、取締役会議長)  
萩尾千里 ((株)大阪国際会議場 代表取締役社長)  
谷内正太郎(元外務事務次官)

【コーディネーター】  
大林剛郎 ((株)大林組 代表取締役会長)

第2セッション「関西の文化力向上」

大竹伸一 (西日本電信電話(株) 代表取締役社長)  
小出英詞 (住吉大社権禰宣)  
近藤誠一 (文化庁長官)  
鳥井信吾 (サントリーホールディングス(株) 代表取締役副社長)

【コーディネーター】  
堀井良殷 ((財)大阪21世紀協会 理事長)

※出演者、テーマ等については予告なく変更する場合があります。

詳細内容・お申し込みは、大阪21世紀協会のホームページでご案内しています。  
<http://www.osaka21.or.jp/event/bunkaryoku2012/>

お問合せ:財団法人大阪21世紀協会 事業チーム TEL:06-6942-2006 FAX:06-6942-5945  
E-mail:bunkaryoku@osaka21.or.jp